

14 アガリクス・ブラゼイ熱水抽出物の 緑膿菌感染抵抗性に及ぼす影響

○高下 崇¹⁾ 山下明宏¹⁾ 白杵孝一²⁾
稲垣宏之³⁾ 鈴木達夫³⁾

1)備前化成(株)研究開発部, 2)ウェルネス
フーズ(株), 3)(社)北里研究所 北里研究所
病院研究部

〔目的〕アガリクス・ブラゼイ(学名
Agaricus blazei Murill)は、ブラジル原産の
担子菌でハラタケ科に属する。この熱水抽出
物の感染症に対する免疫力の増強作用につい
てマウスを用い検討した。

〔方法〕まず、アガリクス・ブラゼイ熱水
抽出物に EtOH を加え、沈渣(Fr.-P)と上
清に分画した。これらを BALB/c マウスに 14
日間投与した。14日目に緑膿菌 2×10^7 cfu を
腹腔内投与し、その後の生存期間に及ぼす影
響を調べた。また、経口投与後のマウスより
腹腔マクロファージを回収し、その食食能を
ラテックスビーズの取り込みで、さらに細胞
内 TNF- α 量はモノクローナル抗体を用いて
測定した。

〔成績〕Fr.-P の経口投与群で高い生存率
(対照群: 0/8、Fr.-P 群: 3/8) が認められ、
Fr.-P が緑膿菌感染に対する抵抗性を高める
ことを示した。さらに、この Fr.-P を経口投
与したマウスより腹腔マクロファージを回収
し、免疫能に及ぼす影響について調べたところ、
その食食能は、ラテックスビーズ食食細胞
数、1細胞あたりの食食ビーズ数ともに対
照群と比べ顕著に増加していた。さらに
TNF- α 産生細胞数も Fr.-P 群で増加が認め
られた。

〔結論〕アガリクス・ブラゼイ熱水抽出物
より調製した Fr.-P は経口投与によって、緑
膿菌感染に対する抵抗性を顕著に高めた。そ
の作用機序の一つとして、感染局所における
マクロファージの活性化が示唆された。